

令和元年度酪農教育ファーム北海道推進委員会主催

■認証牧場交流研修会 開催報告 ■

標記につきまして、下記のとおり報告致します。

記

1.開催日時 令和元年5月30日(木) 14:30~17:00

2.開催場所 山岸牧場（河東郡士幌町字中士幌 8-115）



3.参加者 参加者名簿別紙添付

4.実施概要

○山岸牧場集合

○牧場入口 着替用の建物内で“つなぎ”に着替え、ブーツカバー着用

○手洗い・踏込消毒

○北出さんより 通常時の受入について説明

“酪農を身近に感じてほしい”という思いから始めた。少しでも面白いとか楽しいと感じてもらうことが興味につながる。

体験プログラムは一つ。牧場案内のあと、寝藁ロールのジャングルジム・哺乳体験着替え・手洗いのあと、芝生の上でヨーグルトを食べながら紙芝居を見てもらう。

(中央酪農会議制作「牛乳をいただきます」)

2時間4人～30人(小学生)まで

※搾乳体験は以前はしていたが、牛とスタッフへの負担が大きいのでやっていない。



○体験の前に“牧場での約束”を紙芝居で話す。

牛の表情をよく見て下さい。驚いたりすると腰を抜かすこともありますから、急に大きい声を出したり、早い動きをしたりしないで下さい。そして、勝ってに何でもさわらないで。



着替えたり、長靴に履き替えたりするのはなぜでしょうか？

(通常の体験では、牧場にあるカラフルつなぎに着替えてもらい、長靴も用意してあるものに履き替える)

外から牛に良くない“菌”を持ち込まないように、そして持ち出さないように。

(口蹄疫の話しをして、半径 20 キロ以内の牛を全部殺すことになってしまふ)
あとは、汚れてもいいから思いっきり遊んでほしい。

カラフルつなぎは、写真映りがいいから。(当日は事務局で用意した使い捨てつなぎ)



○牛舎をまわり、子牛・初妊牛・搾乳牛などの説明



○寝藁ロールのジャングルジム

事前に必ず準備運動を行う

絶対にコンクリートには

飛び降りないように注意

寝藁の下にはフカフカの

陸上競技などに使うマット

をいれてある

※保護者や先生には、事前に

必ず危険を伝える。

(けがをした時の責任について)

ここで、30分遊ぶ



○芝生の上で紙芝居



○ “佐倉 Cafe” 2階でディスカッション

自己紹介と今日の感想

伊藤：とわの森の生徒もお世話になっている牧場だが体験は初めて。麦稈の遊びも含め安全衛生対策について改めて考える必要を感じた。

野上：それぞれの牧場にそれぞれの体験があり、そこへ生徒を連れて行った時にどのような反応を見せてくれるか想像するのが楽しい。ある牧場で麦稈の上に寝てもいいよというと生徒がみんなゴロンと寝て、“気持ちいいね”と、そんな体験もあった。是非それぞれの牧場の特徴を生かした体験をこれからもお願い致します。



柏葉：今年から認証牧場となりました。うちの牧場だったらどのように取り入れられるかを考えながら今日の体験をさせてもらいました。これからもよろしくお願いします。

佐藤：ハイジ牧場で動物のふれあいや搾乳・哺乳体験を担当しています。衛生のことや遊び、紙芝居などについて参考にさせていただきます。

岡田：牧場で母から体験を引継ぎ、これから自分がやっていかないとならないが、今日のことを参考にやっていきたい。

塩野谷：山岸牧場に来るのが楽しみだった。説明の仕方がとても上手だったし、けがの対応もマニュアル化していて、うちの牧場にも取り入れたい。また、搾乳体験をしていなくてもこれだけのことが出来ることがとても参考になった。



大津：大津牧場はそれほど大人数を受け入れているわけではないが、今日のことを参考に“楽しく”やっていきたい。

高橋：カラフルつなぎを着ているところを見てみたかった。そういう所の気配りが素晴らしい。

浦：今日は酪農教育ファームはもちろん、牧場を見学することで参考になることも多々あった。興奮しすぎて注意されたことが一番印象に残ったが、北出さんのように話しに勢いがあると子どもたちも惹かれるし、憧れるとと思う。自分も生き生きしていきたいと思った。



増子：一度来たことがあるのに迷ってしまい、まさかの牧場体験できませんでした。

富岡：子どもたちのノリをつかんだら楽しいんだろうな、と感じた。

渡辺：今到着しました。隣の牧場と間違えました。

伯谷：山岸牧場さんと同じことは出来ないが、ヒントになることがたくさんあって、来て良かったと思う。

塩田：担当になってから、まだわからないこともありますよろしくお願いします。

現地検査ではみなさんとお会いしますのでどうぞよろしく。

山際：本当の仕事は管理栄養士で、栄養教諭の養成に携わっています。給食で毎日牛乳が出てますが、都府県では毎日ではなくてもいいように変更となりました。

カルシウム必要摂取量の半分を給食で補っています。牛乳は大事な食品です。

北出さんは子どもの心つかむこと、話し方、間の取り方、何より笑顔がとても良くて素晴らしいかったです。私も笑顔を見習います。

関：十勝振興局です。普段は補助金交付事務などの屋内の仕事をしています。

現場を見る機会がなく、今日初めて参加させていただき勉強になりました。

高橋：“楽しく”というのがコンセプトだが、防疫など伝えるべきところは伝えるべく最初に楽しくひきつけておいて、なぜそうなのか、を説明するなど、上手だなと感じた。家族を連れて来たい。明日発行の「指定団体情報」にも山岸牧場さんが掲載されますので皆さん目を通して下さい。

佐々木：酪農教育ファーム研修会にこれほど多くのファシリテーターの方が参加されたのは初めてでテンションがあがりました。



白馬：防疫の徹底と手洗い場を初めとし牧場の牛舎などの施設の充実が素晴らしいことも
されることながら、北出さんの笑顔に子どもたちも惹きつけられることと感じた。
ここの佐倉cafeには妻が来たいと言っていました。

荒川：酪農をもっと身近に、ということですが、一般の方が酪農を身近に感じるのは
乳加工品で酪農は遠いところにあると思う。今回の体験は、子牛からヨーグルト
まで、とその流れで身近に感じられるようになっている。



村上：北出さんは、ここ数年の短期間でヨーグルト製造と酪農教育ファーム活動、そしてカフェを始められきちんと形にされていますが、自分の中で今後の山岸牧場をどう考えているのか聞かせて下さい。

北出：始める前に、いろいろな牧場がそれぞれのやり方やキャラクターで活動しているのが素晴らしいと思うし、この活動を誇らしく思うところです。

うちの牧場は、家族でできる範囲を基本としているので、受入人数も回数も多くないです。cafe も座席数が少ないし、ヨーグルトも製造を減らしました。

自分達が楽しんでできる範囲 を意識しながらも、どうせやるならもっともっとという思いもありますが、スタッフ・家族・自分のバランスを考え、誰かひとりの負担にならないように気を付けます。

話し方が上手とかお褒めの言葉もいただきましたが、基本的に興味がなさそうな子どもはほうって置きます。やっていく中で一つでも興味をもってくれればいいですが、強制するものでもない。

色々なことを私自身がやっているように思われますが、ヨーグルトも酪農教育ファーム、カフェも母の要望で始めました。今年から始めたファームインも会社の方針です。特別なことをしているわけではなく、教育ファームも防疫について学びたかったこともあります、教えられたことをそのままやっているだけです。

様々なことをいろんな牧場からヒントをいただいているので、これからもよろしくお願い致します。

村上：みなさんから何か聞きたいことや、こんなことにヒントがほしいとかありませんか？

塩野谷：受入の時に、どうやったら子どもたちの気持ちをつかんでいけるかな？と思っています。

渡辺：修学旅行などで来ると、半分は興味がなかったりどうでもよかつたりすると思いますが、最初に今日はこれから楽しいことをするんだということを伝えるようにしています。（爆発的な一言とか）牛乳の正しい飲み方普及会員を募る。

どんな人が来るのか、どんなことをしたら楽しいと思ってもらえるのかを考えていることは大切。

村上：塩野谷さんすみません。聞く人を間違えました。（笑）

私たちはプロではないので、なかなか惹きつけるというのは難しいです。特に学生とかは。とにかく興味をもってくれそうな人をターゲットにして、このおじさんと関わったら楽しそうだなと思わせる。

僕たちより牛の大きさや暖かさの方がずっと印象に残るのかもしれない。むしろその方が重要。何かは伝わっている。

プロの野上先生は。

野上：観光と学校は違うと思うけど、事前にどんなことに興味をもっているかがわかるとうまくマッチングするかもしれない。

修学旅行で連れられてきてる子でも何年かたって、思い出に残っていてくれたら。

柏葉：出前が3回くらいと、酪農体験で年1回30人くらい生徒が来る時は、僕の趣味ですが牛の着ぐるみでやります。そうなるといきなり笑顔になるので、つかみとしてはいい感触です。小学生、中学生ぐらいまでで、高校生は引きまくりでダメです。

大津：小学1年生が絵を描くために10年くらい続けて牧場に来ていたのだけど、1人の子が動物アレルギーで今年から全員が中止になったのですが、それはどうにもならないものでしょうか？

渡辺：小学生はアレルギーレベルが厳しいので仕方がないと思います。

伊藤：先生というよりも保護者の判断なんです。



酪農教育ファーム北海道推進委員会主催

認証牧場交流研修会 出席者名簿

開催日時：令和元年5月30日(木)14:30～17:00

開催場所：山岸牧場(河東郡士幌町)

No.	氏 名	所 属	備 考
1	村上 隆彦	むらかみ牧場	恵庭市
2	佐藤 友美	ハイジ牧場	長沼町
3	岡田 千春	岡田牧場	広尾町
4	渡辺 隆幸	渡辺体験牧場	弟子屈
5	大津 美保子	大津牧場	せたな町
6	伯谷 清人	社名渕みどり牧場	遠軽町
7	塩野谷 久子	レークヒル牧場	洞爺湖町
8	岩谷 史人	i-ふあーむ岩谷牧場	幕別町 欠席
9	岩谷 智恵	i-ふあーむ岩谷牧場	幕別町 欠席
10	富岡 一也	RichesHill's	浦河町
11	増子 昭雄	ますこ牧場	東藻琴
12	高橋 育男	高橋体験牧場	ニセコ町
13	浦 薫	ベイリッチランドファーム	美瑛町
14	柏葉 宏樹	柏葉ファーム	津別町
15	白馬 照康	白馬牧場	大空町
16	北出 愛	山岸牧場	士幌町
17	伊藤 有輝	とわの森三愛高校	江別市
18	野上 泰宏	帯広市つつじが丘小学校	帯広市
19	山際 瞳子	北海道栄養士会	札幌市
20	荒川 求	旭川あらかわ牧場	旭川市
21	関 優一	十勝振興局 農務課	
22	塩田 弥生	(株)アーガス	事務局
23	高橋 伸彰	ホクレン 生乳共販課	事務局
24	佐々木 真弓	ホクレン 生乳共販課	事務局

令和元年 5 月 30 日実施

酪農教育ファーム認証牧場交流研修会アンケート結果

1.今回の研修会への参加理由は?

- 山岸牧場に来てみたかった。
- 酪農体験や加工をやっている牧場を見てみたかった。
- 近かった。
- 取組について勉強したかった。
- 交流活動の参考。
- 翌日も交牧連の総会があったので
- 楽しそうだったから。

2.印象に残ったことや勉強になったことがありますか?

研修会全体を通して良かった点や改善すべき点など気になったことはありますか?

- 実際に現場で体験の話しを聞いたので勉強になった。
- 手洗いのあと、アルコール消毒があっても良かったかも。
- カラフルつなぎや長靴を揃えているのは良いと思った。
- 子どもへの説明の仕方が参考になった。
- けがへの対応のマニュアル化・書面化など法的対策の準備
- 搾乳体験をしなくても、これだけのプログラムを組み 2 時間の体験ができるのだから
自分の牧場でも、工夫するとまだ色々できる事があると思った。
- 寝藁ロールで遊ぶ時に、野上先生の「寝てごらん」の一言で安全面でも変わることが
勉強になった。
- 現場はやはり素晴らしい。
- つなぎに着替えるのは安心だしいいと思うが準備が大変。
- 体験者的心を惹く流れになっている。
- 参加者が少年のような目で写真を撮っていた。
- cafe～牧場間を少しの間みんなで歩くのはいいと思った。
- 現場での研修は普段見ることができない部分も体験できてよかったです。
- 是非搾乳体験を再開してほしい。
- 全て自然体で素晴らしい。(しっかりとした計画の元での自然体・心が素直に滲み
出ている自然体)

- 短期間で事業が拡大しているとのことですが、これも自然の流れということなので、無理せず、楽しみながら、小体の6次化にむかっているのがとても素敵です。
- 衛生管理・危機管理などはマニュアル化し、書類として残しておくのが良い。
- 色々な牧場の特徴を知ることで、授業のイメージやねらいなど色々考えることができた。
それぞれの学年が牧場へ行く意義を改めて感じた。
- 地域との関わりや、ヨーグルト製造から酪農体験、cafeのオープンと山岸牧場の成行などの話しが印象に残った。

3.北海道推進委員会主催の研修会への要望や対象としたい団体はありますか？

- いろんな牧場の受入体験の話をたくさん聞きたい。
- 体験と加工の相乗効果をテーマにしてほしい
- カントリーファーマーズ藤田牧場で開催してほしい
- ヨーグルト・チーズ工房の見学
- 牧場で実際に体験に参加した方が意見や提案がたくさん出る。
- 先生達と交流したい。
- 学生など将来を考えている人たちと意見交流をしたい。
- 学生対象の座学。
- 各牧場で伝えたいテーマ(一番伝えたい思い)を聞きたい。いのち・食・しごとなど大きなテーマはあるが、牧場主の率直な思いを聞き交流したい。
- 渡辺体験牧場で開催してほしい。

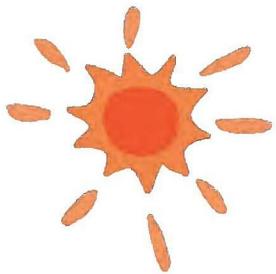
4.その他

- 「熱中症と牛乳」について（野上先生提案より）
“水を飲む”“休みながら”“帽子をかぶる”などはよく言われますが、それらは【対応】にすぎません。
根本的な体質改善の話しが不足しています。
①順応させる ②血量を増やす ③足の筋肉を増やす などのことが熱中症を防ぐ。
(①サウナ ②牛乳 ③マラソン)・・・など
もっと啓蒙しましょう。
- ※ J-milk パンフレット（信州大学大学院医学系研究科 能勢教授監修）掲載
別紙添付しました。

暑い夏を牛乳でのりきろう！

牛乳は「熱中症」を防いでくれる 強い味方です！





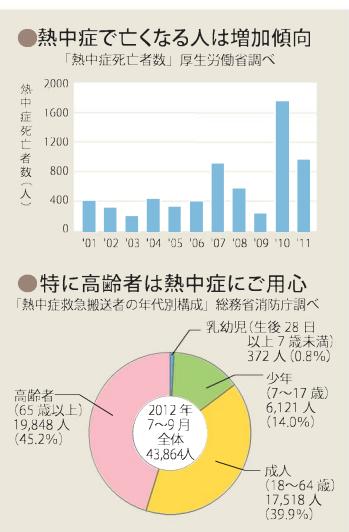
炎天下の外出や運動の直後に牛乳を飲みましょう



真夏になる前に 熱中症に強い体を作ろう

温暖化の影響やヒートアイランド現象などで、35°Cを超える猛暑が珍しくなくなりました。この暑さで心配なのが熱中症です。暑さに強い体をつくるためには、夏到来前の5月～6月に、「やや暑い環境」で「ややきつい」と感じる運動を1日15分～30分間実施しましょう。さらに運動の直後にたんぱく質と糖質を多く含む牛乳を摂取すると、血液量が増加して熱中症リスクを効果的に下げるることができます。

この「運動+牛乳」の組み合わせは、熱中症にかかりやすい子どもと高齢者にも有効です。子どもは汗腺が未発達なので1回の運動を15～30分にとどめ、休憩をしっかりとりましょう。また高齢者にとって「ややきつい運動」を継続するのは難しいので、早歩きとゆっくり歩きを3分間ずつ交互に行う「インターバル速歩」を取り入れるとよいでしょう。



これからも、日本の牛乳・乳製品を届け続けたい

いろいろな食品が相次いで値上げされています。酪農家から乳業メーカーに販売される飲用向け生乳*の取引価格(乳価)も4月から1キロ当たり4円引き上げられ、さらに各乳業メーカーでも、人件費や物流費、包材価格などの高騰により、牛乳等の小売価格が値上げされました。

*飲用向け生乳：牛乳やヨーグルト等に仕向けられる生乳(乳牛から搾ったままの乳)のこと

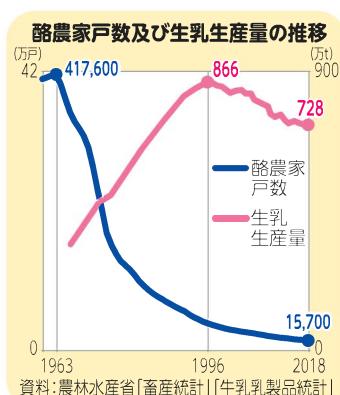
牛乳・乳製品は、日本の基礎的な食料



牛乳・乳製品は、お米よりも需要量が多い(牛乳・乳製品:約1,200万t[生乳換算]、米:約860万t)
日本の基礎的な食料。その原料「生乳」をつくるのが酪農の仕事です。

酪農家は、愛情を持って乳牛の世話をし、子牛を産んだ母牛から生乳を搾ります。

牛乳需要は好調も、酪農家は減少



牧場に休みはなく、労働時間は長くなりがちです。高齢化や後継者不足に加え、工賃代や燃料代の高止まり、設備の更新や投資費用の増大、自然災害のリスクもあります。このため、酪農家の戸数はピーク時から40万戸以上、生乳生

産量も130万トン以上減少してしまいました。

健康志向などにより牛乳の需要が好調ななか、このまま酪農家が減り続ければ、誰もが気軽に牛乳を飲めなくなってしまうかもしれません。

今回、乳業メーカーが乳価の値上げを受け入れた背景には、このような危機感があったからなのです。

- わたしたち酪農家はこれからも、安全・安心でおいしい牛乳・乳製品を安定してお届けできるよう努力します。
- これからも日本の牛乳・乳製品への応援をよろしくお願ひいたします。

「足りなければ輸入したら?」は危険!

世界の牛乳・乳製品生産量は8億トン以上(生乳換算)ありますが、そのほとんどは自国内で優先的に消費され、輸入に回るのは1割未満。輸出国も数カ国に限られます。

また、酪農は気象の影響を受けやすく、干ばつなどで、いずれかの国の輸出が減ると、国際価格が急騰。一方、世界の人口増加などにより需要は増えていて、中長期的には不足気味な状況が続くと見込まれています。

“国産”の価値に見合った価格にご理解を



生活必需品でありながら、買い置きができない牛乳。特売の対象になりやすく、小売価格はじわじわと下落。過去にも今回のように、牛乳の小売価格の値上げがありましたが、それも維持できませんでした。

酪農の持つ役割は、生乳の生産だけではありません。牛の糞を肥料として田畠に還元する「循環型農業」の基軸を担い、耕作放棄地の活用などによって日本の国土保全と里山の景観や環境の維持に貢献するなど、いろいろな役割を担っているのです。



牛乳は「熱中症」予防の強い味方です!

- 暑くなる前から、熱中症に負けない体づくりを! -



近年の猛暑で熱中症のリスクが高まっています。暑さに強い体づくりに
おすすめしたいのが、手軽にできる「運動+牛乳」の習慣です。

[外出や運動の直後に牛乳を飲んで、血液と筋肉を増やそう!]

地球温暖化やヒートアイランド現象などで、35°Cを超える猛暑が珍しくなくなりました。この暑さのなか、熱中症のリスクが年々高まっています。特に高齢者は、暑さやのどの渴きを感じにくいため重篤化しやすく、熱中症死亡者数の約8割は65歳以上の高齢者が占めています。

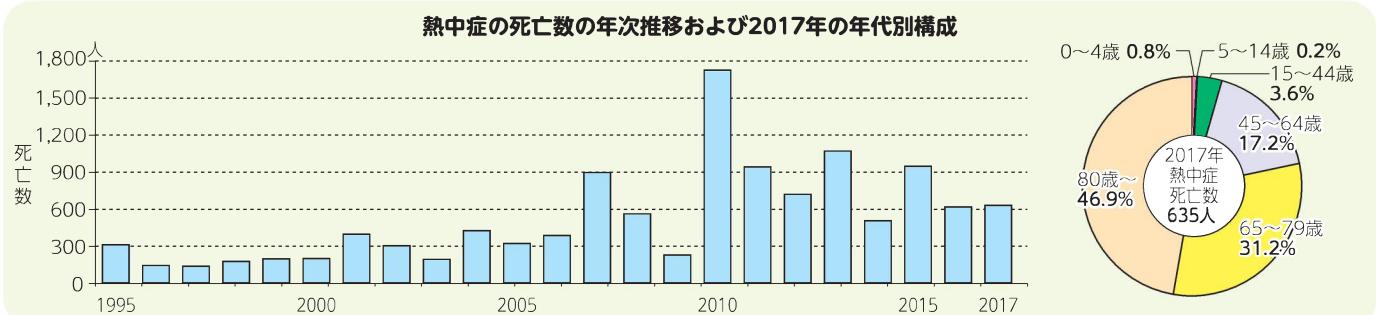
暑さに強い体をつくるには、本格的に暑くなる前の5~6月から「やや暑い環境」で、自分が「ややきつい」と感じるウォーキングなどの運動を、1日15~30分間、週に3~4日行いましょう。そして、運動直後に、コップ1杯の牛乳を! 牛乳に含まれるたんぱく質と糖質は、血液量を増加させます。

体のなかで血液量が増えると、皮膚に血液を集めて放熱する働きや、血液から汗を作り、その蒸発によって体温を下げる働きが活発になり、熱中症を予防してくれます。

ちなみに、高齢の方で「ややきつい運動」の継続が難しい場合は、早歩きとゆっくり歩きを3分間ずつ交互に行う「インターバル速歩」をおすすめします。

また、注意が必要なのが、汗腺が未発達な子どもたち。発汗による体温調節が大人の3分の2ほどしかできないので、1回の運動を15~30分以内にとどめ、牛乳を飲みながら休憩をしっかり取りましょう。

資料:(一社)Jミルク・リーフレット『牛乳は「熱中症」を防いでくれる強い味方です!』



出典:厚生労働省「平成29年(2017)人口動態統計(確定)」より

初夏のミルクレシピ・スムージー3種

《材料:一人分》

- A: ● マンゴー 1/2個
● パイナップル 50g
● バナナ 1/3本
● 牛乳 100ml
- B: ● ブドウ(巨峰など) 12粒
● バナナ 1本
● グレープフルーツ 1/2個
● 牛乳 100ml
● ヨーグルト 50ml
- C: ● 夏ミカン 1/4個
● オレンジ 1/2個
● バナナ 1/2本
● トマト 中1/2個
● ハチミツ 大さじ1/2
● 牛乳 75ml

● 作り方

- A ① 皮や芯などを取り除く。
B ① ブドウは種を、バナナ・グレープフルーツは皮や種などを取り除く。
C ① 皮やヘタ、種などを取り除く。(ミカン類の薄皮はそのまま)
A・B・C ② 材料をすべてミキサーで攪拌しやすい大きさに切っておく。
③ ミキサーにかけて、全体がなめらかになったら、グラスに注ぐ。



一般社団法人 中央酪農会議 指定生乳生産者団体

<http://www.dairy.co.jp/>